

ユニオンファンド 月次レポート

第 173 号

追加型投信 / 内外 / 株式 分配金再投資専用ファンド

2023年4月6日作成

MONTHLY TOPIC

「安く買って高く売る」の落とし穴

安く買って高く売るのが利益を上げる秘訣だとよく言われます。基準価額が上がったり下がったりだと、なおさら「今度上がったら売って、下がったら買い戻そう」と思いがちです。しかしこれには落とし穴があります。

勝った回数には意味がない

前月号に続き昔話で恐縮ですが、前に勤めた投信会社での若いころの経験です。親会社である証券会社から、支店長経験者など大先輩が株式売買の腕を買われてファンドマネージャーとしてやってくる、ということが時々ありました。「支店のお客さんには損をさせたことがない、悪くても10戦9勝だ」と皆さん結構自信満々でした。ところが、しばらくすると、経験の浅い若手よりも運用成績が悪いことに気が付いて、「買った株は全部利益が出て売っているのになぜだ」と悩まれる方が少なくありませんでした。

腕自慢の元支店長さんたちが、ほぼ持ちっぱなしの若手に勝てなかったのは、安く買って高く売るという目先の勝ち負けにこだわりすぎたからだと思います。売り買いのテクニックに長けていることより、上昇局面でたっぷり利益を上げることの方が、資産を増やすためにはよほど大切です。

本当に安いのか、本当に高いのか。これがまた難しい

「安く買う」といっても、本当に安いかどうかの判断はなかなか難しいものです。高いと思って売る場合も同じです。自分ではもう高過ぎると思っても、世の中の他の投資家の多くが同じように考え、行動しなければ、株価は下がってくれません。他人がこれからどう行動するか予想して当てなくてはいけないわけですが、そんなことはほとんど不可能と言って良いでしょう。

自分の買い値や売り値に引きずられがち

自分が買った値段より高いか安いかを売買の参考にされる方は少なくないようです。しかし、自分の売買コストを目安にすると、値上がりしたら「高いから売ろう」となりますし、値下がりすると「買い値より安いので買おう」となってしまいます。しかし、優れた会社はこちらの買い値などには関係なく上がり続けますし、逆もまた同じです。自分の過去の売買の値段を今後の売買の目安にすることに意味を見出すのは困難です。

ユニオンファンドが組み入れているファンドは、その会社の価値に比べて株価が安いから買うということに徹しています。皆さんの代わりに、割安で優れたものに保有銘柄を入れ替えてくれるのです。株価の動きを気にしすぎることなく、気長に持ち続けていただくことを改めてお勧めします。

久保田徹郎

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

UNION FUND REPORT

ユニオンファンド運用状況

(2023年3月末現在)

基準価額

30,680 円

純資産総額

105 億 89 百万円

期間別騰落率(%)

1 ヶ月	-0.62%
1 年	-0.62%
3 年	53.22%
5 年	25.29%
10 年	94.89%
設定来	206.80%

複利年率(%)

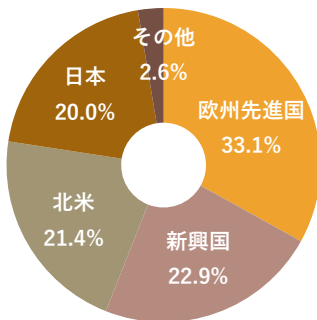
8.07%

* 騰落率は過去の実績値であって、将来の成績を約束するものではなく、また受益者ごとの購入時期によって異なります。

* 「複利年率」は、設定日から基準日までの騰落率を年率（複利）で表したものです。

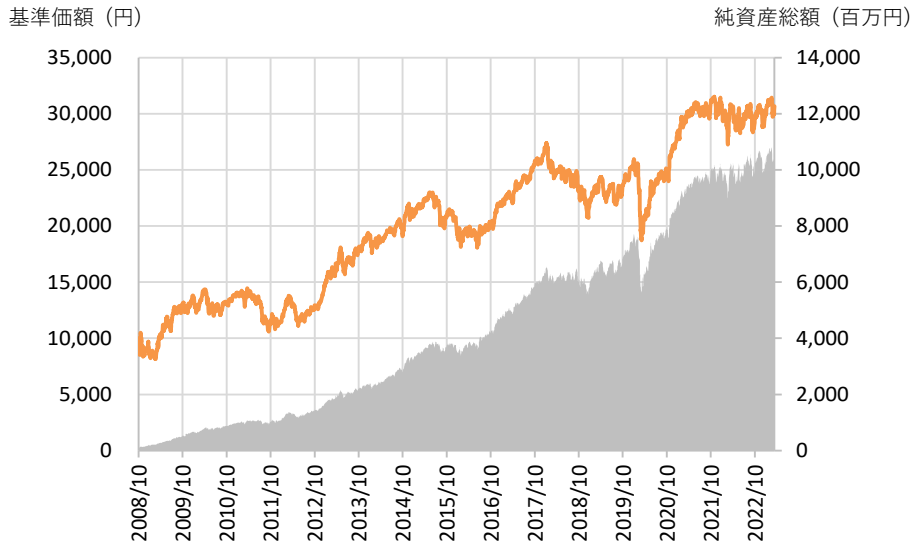
* 設定来、分配の実績はありません。

地域別構成比



投資部分(現金等を除く)に占める比率
(2023年2月末現在)

基準価額と純資産総額の推移 (設定来、分配の実績はありません。)



組入ファンドの内訳

ファンド名	主な地域	組入比率(%)	月間騰落率(%)※
さわかみ F	日本	4.9%	1.6%
スパークス F	日本	12.1%	0.5%
キャピタル F	欧米	18.7%	-0.4%
ハリス F	欧米	19.3%	-2.2%
コムジェスト・ヨーロッパ F	欧州	12.2%	1.6%
コムジェスト・エマージング F	新興国	19.0%	-1.8%
現金等	-	13.8%	-

※ 騰落率はユニオンファンドの基準価額に反映する日付で計算

ファンドの特長

- ① 長期で「債券」の収益率を上回るとされる「株式」に投資します
- ② 世界の経済成長を享受するため、「グローバル」な視点で投資します
- ③ 専門性の高い複数ファンドに投資する「ファンド・オブ・ファンズ」で運用します
- ④ 実績のある資産運用会社の「アクティブ」ファンドに投資します
- ⑤ 株価が割高と思われるときには現金比率を高め、割安局面での買い増しに備えます

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

UNION FUND REPORT

2023年3月の市場動向と運用状況

投資環境

世界の株価は前半堅調、中旬にかけて下落、後半は回復と変動し、ほぼ前月末の水準で終わりました。

2月後半の下落の反動もあって株価は堅調に始まりましたが、米国連邦準備理事会（FRB）のパウエル議長が、政策金利であるFF金利は従来予想を上回る可能性が高く、利上げのピッチを速める可能性もあると発言したことから反落しました。バイデン政権が増税案を示したことも一時警戒されました。

中旬には米国と欧州で複数の銀行が経営危機に陥ったことで、市場には不安心理が広がりました。もっとも、米国では金融当局や金融機関が矢継ぎ早に対策を実施し、欧州では危険な状態だった銀行を別の銀行が買収することが決まったことで、混乱は次第に収まりました。金融機関の経営不安が広がるなか、債券利回りは低下し、利上げも早晚打ち止めになるとの見方が広がったことから、株価は月末まで回復基調となりました。

運用の状況

ユニオンファンドの基準価額は、前半の31,000円超から中旬には30,000円割れへとやや変動しましたが、前月末比小幅安で終わりました。

売買は見送りました。月末の組入比率はほぼ前月末並みの86.2%でした。

今後の見通し

銀行問題が広がっていた最中に欧州中央銀行（ECB）とFRBは利上げを実施しました。これは、大規模な金融危機に発展する事態は避けられるとの判断があったことに加えて、インフレ率の低下が思いのほか緩やかであり、かつその水準が中央銀行の目標水準を大きく上回っているためと考えられます。銀行問題が差し当たり鎮静化しつつある現状では、インフレ抑制を優先する中央銀行のこれまでの姿勢がすぐに大きく変わるか微妙なところですが、FF金利の予想水準はこのところ少しずつ上昇しており、利下げ期待はしばみつつあると見られます。3月後半の株価回復に寄与した利上げ停止や利下げへの期待が弱まれば、株価の回復も鈍ると考えられます。

銀行問題が表面化する前から、欧米の多くの銀行が融資の際の基準を厳しくしていましたが、今回の混乱で融資をさらに絞ってくる可能性があり、これが景気に悪影響をもたらすことが懸念されます。FF金利の大幅上昇や高止まりは、過去に何度も金融危機を引き起こしてきましたので、しばらく注意が必要な局面と思われる。

もっとも、今回の銀行問題への対策として、金融当局は市場への資金供給を増やしました。これは当面プラス材料かもしれません。米欧をはじめとする主要な中央銀行は、コロナ危機で急増した市場の資金を吸収するため、いわゆる量的引き締め（QT）を進めていました。QTは、金利の引き上げとともに、量の面でも金融を引き締める効果があると考えられますが、この動きが少なくとも一旦は逆転したことになります。

こうしたことから、事態の急速な悪化は今のところ想定していませんが、しばらくは金融と景気の状態を注視していくことが必要と考えています。現行のやや慎重な姿勢を維持しつつ、買い増しの機会を探っていく方針です。

運用責任者 久保田徹郎

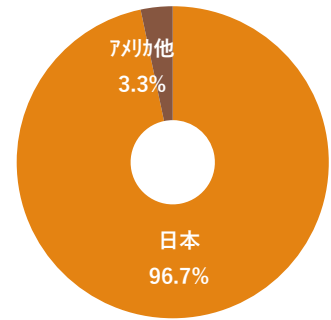
◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書（交付目論見書）の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

さわかみファンド

基準価額の推移



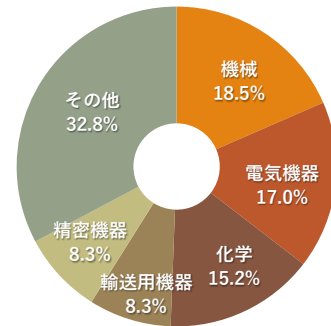
国別構成比



組入銘柄トップ10

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 信越化学工業	4.5%	日本	化学	塩ビ・シリコンエー世界大手
2 ダイキン工業	4.4%	日本	機械	エアコン世界首位
3 浜松トニクス	4.2%	日本	電気機器	光検出器の世界的企業
4 プリヂェストン	3.7%	日本	ゴム製品	タイヤ世界大手
5 テルモ	2.9%	日本	精密機器	医療機器 (カテーテル)
6 トヨタ自動車	2.8%	日本	輸送用機器	自動車世界大手
7 日本電産	2.7%	日本	電気機器	精密モーター世界首位
8 ディスコ	2.6%	日本	機械	半導体等の切削・研磨装置
9 TOTO	2.3%	日本	ガラス・土石製品	衛生陶器国内首位
10 セブン&アイHD	2.2%	日本	小売業	大手総合小売業
上位10銘柄	32.3%	現金等	14.0%	

業種別構成比



※ 業種：東証33業種、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 < 2023年3月末現在 >

スパークスF (スパークス・集中投資・日本株ファンドS)

基準価額の推移



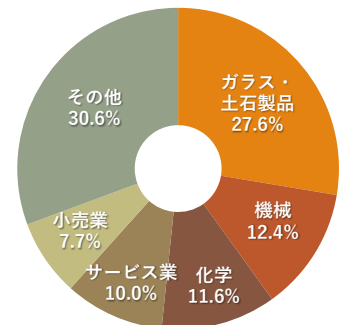
国別構成比(マザーファンド)



組入銘柄トップ10 (マザーファンド) ※組入比率の記載はなし。証券コード順。

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
シップヘルスケア		日本	卸売業	医療機器・設備
クミアイ化学工業		日本	化学	国内農業大手
東洋炭素		日本	ガラス・土石製品	特殊黒鉛製品 (等方性黒鉛)
MARUWA		日本	ガラス・土石製品	セラミック基板世界トップ
フジインコーポレーテッド		日本	ガラス・土石製品	半導体用研磨材等
マックス		日本	機械	鉄筋結束機、スケーラー
全国保証		日本	その他金融業	独立系の住宅ローン保証会社
ダイレクトマーケティングミックス		日本	サービス業	営業・マーケティング代行等
トーセイ		日本	不動産業	不動産流動化・開発・賃貸等
京成電鉄		日本	陸運業	東京・千葉方面の大手私鉄
現金等	6.0%			

業種別構成比(マザーファンド)



※ 業種：東証33業種、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 < 2023年2月末現在 >

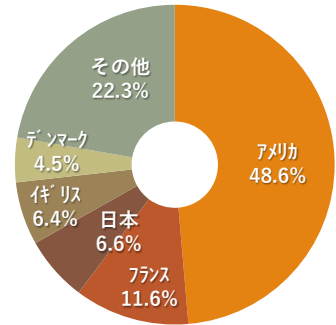
◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

キャピタルF (キャピタル・グループ・グローバル・エクイティ・ファンド(LUX)クラスZ)

基準価額の推移



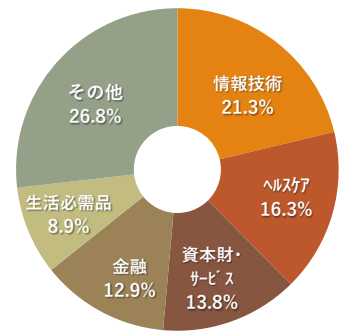
国別構成比



組入銘柄トップ10

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 Novo Nordisk	2.5%	デンマーク	ヘルスケア	糖尿病薬等世界首位
2 Microsoft	2.3%	アメリカ	情報技術	世界最大のコンピューター・ソフト
3 ASML	2.1%	オランダ	情報技術	半導体製造装置メーカー
4 Broadcom	2.1%	アメリカ	情報技術	無線・通信向け半導体等
5 AstraZeneca	2.0%	イギリス	ヘルスケア	薬品会社
6 Safran	1.7%	フランス	資本財・サービス	航空・宇宙・防衛用エンジン等
7 Apple	1.6%	アメリカ	情報技術	デジタル機器・ソフト大手
8 Alphabet	1.6%	アメリカ	コミュニケーション・サービス	グーグルの持ち株会社
9 UnitedHealth	1.5%	アメリカ	ヘルスケア	医療保険、ヘルスケアサービス
10 AIA	1.4%	香港	金融	生保・金融サービス
上位10銘柄	18.8%	現金等	4.4%	

業種別構成比



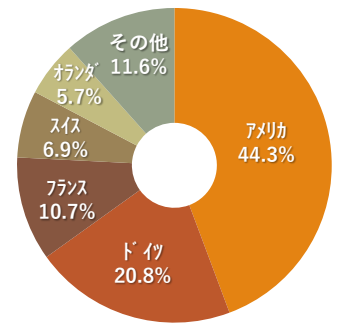
※ 業種：MSCI世界産業分類基準の11セクター、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2023年2月末現在>

ハリスF (ALAMCOハリス グローバルバリュース株ファンド2007)

基準価額 (分配金込み) の推移



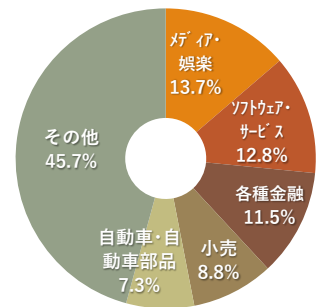
国別構成比(マザーファンド)



組入銘柄トップ10 (マザーファンド)

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 ALPHABET	4.9%	アメリカ	メディア・娯楽	グーグルの持株会社
2 MERCEDES-BENZ	4.2%	ドイツ	自動車・自動車部品	自動車世界大手
3 BNP PARIBAS	4.1%	フランス	銀行	フランス大手銀行
4 FISERV	3.4%	アメリカ	ソフトウェア・サービス	金融機関向け情報処理サービス
5 AMAZON.COM	3.4%	アメリカ	小売	ECサイト、ウェブサービス
6 BAYER	3.1%	ドイツ	医薬品・バイ	大手化学医薬品メーカー
7 ALLIANZ	3.1%	ドイツ	保険	総合保険大手
8 SALESFORCE	3.1%	アメリカ	ソフトウェア・サービス	クラウド型営業支援・顧客管理
9 JULIUS BAER	3.1%	スイス	各種金融	プライベートバンク
10 CNH INDUSTRIAL	2.8%	オランダ	資本財	農機・建機メーカー
上位10銘柄	35.2%	現金等	4.6%	

業種別構成比(マザーファンド)



※ 業種：MSCI世界産業分類基準の24産業グループ、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2023年2月末現在>

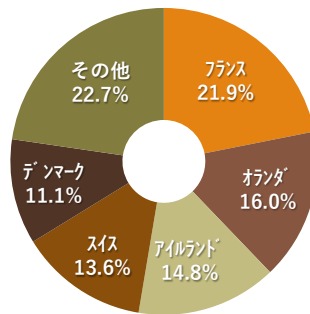
◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

コムジェスト・ヨーロッパF (コムジェスト・ヨーロッパ・ファンド90)

基準価額の推移



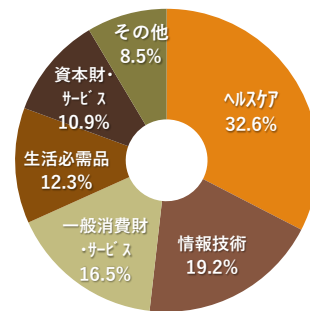
国別構成比(マザーファンド)



組入銘柄トップ10 (マザーファンド)

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 NOVO NORDISK	8.3%	デンマーク	ヘルスケア	糖尿病薬等世界首位
2 ASML	8.0%	オランダ	情報技術	半導体製造装置メーカー
3 ESSILORLUXOTTICA	5.4%	フランス	ヘルスケア	光学製品
4 LVMH	5.3%	フランス	一般消費財・サービス	ファッション等高級ブランド 世界大手
5 LINDE	4.3%	アイルランド	素材	産業ガス世界大手
6 STRAUMANN HD	4.2%	スイス	ヘルスケア	歯科インプラントメーカー
7 ACCENTURE	3.8%	アイルランド	情報技術	総合コンサルティング会社
8 ALCON	3.6%	スイス	ヘルスケア	眼科医療機器・薬剤
9 HEINEKEN	3.4%	オランダ	生活必需品	ビール生産世界大手
10 DASSAULT SYSTEMES	3.1%	フランス	情報技術	欧州大手3Dソフトウェア会社
上位10銘柄	49.4%	現金等	2.5%	

業種別構成比(マザーファンド)



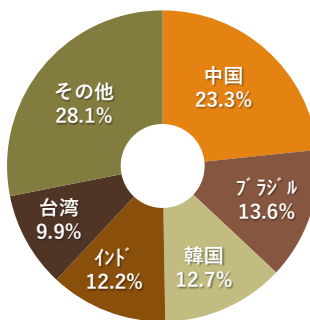
※ 業種：MSCI世界産業分類基準の11セクター、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2023年3月末現在>

コムジェスト・エマージングF (コムジェスト・エマージングマーケット・ファンド95)

基準価額の推移



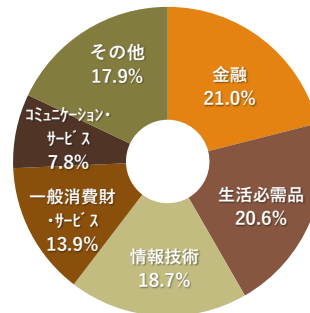
国別構成比(マザーファンド)



組入銘柄トップ10 (マザーファンド)

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 TSMC ADR	5.6%	台湾	情報技術	半導体メーカー
2 FOMENTO ECONOMICO	5.5%	メキシコ	生活必需品	飲料、コンビニチェーン
3 INNER MONGOLIA YILI	5.2%	中国	生活必需品	乳製品国内大手
4 BB SEGURIDADE	4.6%	ブラジル	金融	保険大手
5 WEG	4.3%	ブラジル	資本財・サービス	電動機、変圧器
6 AIA	4.3%	香港	金融	生保・金融サービス
7 SAMSUNG ELECTRONICS	4.2%	韓国	情報技術	家電・電子部品大手
8 DELTA ELECTRONICS	4.0%	台湾	情報技術	電源、変圧器
9 MERCADOLIBRE	3.9%	アルゼンチン	一般消費財・サービス	中南米中心のEコマース企業
10 HOUSING DEVELOP. FINANCE	3.8%	インド	金融	インド最大手の住宅開発金融会社
上位10銘柄	45.4%	現金等	3.1%	

業種別構成比(マザーファンド)



※ 業種：MSCI世界産業分類基準の11セクター、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2023年3月末現在>

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

NOTICE

業務管理部からのお知らせ

取引残高報告書について

今回、「2023年1月～3月」の期間中にお取引があったお客様を対象に、郵送にてご報告しています。

- ※ 口座に残高があるお客様で、前回の「取引残高報告書」作成日以降お取引がない場合には、1年毎に「取引残高報告書」にてご報告いたします。

「お取引の明細と預り金の残高明細」の見方

記載対象期間内にお取引された明細および作成日現在のお預り金の残高です。

- ※ 最後に表示される「お預り金」につきましては、“作成日現在”でユニオンファンドの買付が完了していない場合にはその金額が、完了している場合には「0円」が表示されます。

「お預り証券等の残高明細」の見方

お預り証券等の残高明細（イメージ）

銘柄名	数量	評価金額合計 [a]	運用損益[a-b+c]	円
	基準価額	投資金額 [b]	※a,b,c 及び運用損益は全預り通算で算出	
(預り区分)	評価金額	受取金額 [c]		
(決算日)	取得単価	個別元本		

数量	ユニオンファンドの残高口数です。
基準価額	作成日（2023年3月31日）現在の基準価額です。
評価金額	作成日現在の残高の「評価金額」です。 （「評価金額」＝「数量」×「基準価額」÷10,000で算出されます。）
取得単価・個別元本	これまでユニオンファンドを取得された価額の加重平均です。 一般口座でのお取引の場合は、「個別元本」のみが表示されます。
評価金額合計 [a]	評価金額の合計です。
投資金額 [b]	ご購入された金額の累計です。 ※ 相続等により入出庫があった場合は、入出庫分の購入金額または取得価額に相当する金額が増減されます。
受取金額 [c]	ご解約された金額及び受取分配金額の累計です。 ※ ユニオンファンドは設定来、分配金を出しておりません。
運用損益[a-b+c]	作成日現在の運用損益です。 「運用損益」＝「評価金額合計」－「投資金額」＋「受取金額」

ご不明な点がございましたら、弊社業務管理部（TEL:0263-38-0725）までお問い合わせください。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

RISK AND FEE

ユニオンファンドのリスク・手数料

『ユニオンファンド』のリスク

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。－

ユニオンファンドは、主に国内外の株式などに投資する投資信託証券等に投資するファンド・オブ・ファンズの形式で運用を行います。組入れる投資信託証券等は、株価変動、金利変動や債券発行者の経営・財務状況の変化等で値動きします。また、為替相場の影響を受ける投資信託証券等もあるため、ファンドの基準価額も変動し、損失を被ることがあります。したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。

当ファンドの主なリスクは、「価格変動リスク」、「為替変動リスク」、「カントリーリスク」、「信用リスク」、「流動性リスク」です。

『ユニオンファンド』の手数料等

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。－

申 込 手 数 料 お申込みにあたって弊社にお支払いただく手数料はありません。
※スポット購入時の購入用口座への振込手数料はお客様負担となります。

換 金 手 数 料 ご換金（解約）にあたって弊社にお支払いただく手数料はありません。

信 託 財 産 留 保 額 ありません。

信 託 報 酬 純資産総額に年 0.88%（税抜 年 0.8%）の率を乗じた額です。
毎日、信託財産の費用として計上され、基準価額に反映されます（基準価額は信託報酬控除後の価額です）。
[*実質的な信託報酬（概算）：純資産総額に対して年 1.8%±0.3%（税込）]
*実質的な信託報酬の率は、『ユニオンファンド』が投資対象とする投資信託証券にかかる信託報酬を含めたものです。あくまでも目安であり、組入状況により変動します。
※ 信託報酬にかかる税金は、税法等が変更・改正された場合、変更になることがあります。

そ の 他 の 費 用 上記のほか、次の手数料・費用等が信託財産の費用として計上され、基準価額に反映されます。

- ① 組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料（消費税等相当額の費用を含みます。）
- ② 信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立て替えた立替金の利息、監査法人から監査を受けるための費用（監査費用）（消費税等相当額を含みます。）

※ 監査費用は弊社が一部または全部を負担することがあります。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書（交付目論見書）の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。